

年度評価シート

課名 観光・MICE推進課

施設の名称 静岡市東海道広重美術館	指定管理者名 特定非営利活動法人ヘキサプロジェクト
1 履行状況	
業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。	
(1) 維持管理業務 施設内の清掃、建築設備点検、備品管理等を日常的に実施し、必要な場合は、その一部を専門的な知識と技術を有する第三者に委託して実施。修繕が必要な場合は、本市との協議のもと適宜対応した。また、美観の維持のための清掃業務や駐車場施設の日常点検等は職員によって着実に実施された。施設の安全の確保及び収蔵する美術作品の管理について、善良な注意義務をもって適切に維持管理を行った。	
(2) 施設利用者数 令和2年度の入館者数は10,607人で、目標数値27,647人に対して、達成率38.4%であった（令和元年度は、入館者数19,955人、目標数値27,373人、達成率72.9%）。 令和2年度は、令和元年度に対して利用者数が▲9,348人（対前年度比53.2%）であり、前年度割れという結果であった。一昨年度より続く桜エビの不漁に加え、緊急事態宣言を受けての臨時休館、またこれまで来館の多かった清水港寄港客船、学校等の団体、旅行会社のツアー等についても、新型コロナウイルスの影響によりキャンセルが相次いだこと等の外的要因が大きい。一般客に関しても、不要不急の外出自粛や県を跨いだ移動の制限等が来館者数に影響している。こうした状況で、対前年度の月別来館者数はほぼ全ての月でマイナスであったが、7・8月に本市が実施した「静岡市はいいねえ。スタンプラリー」の効果により、8月に関しては昨年度から利用者数が302人増加している（対前年度比115.7%）。	
(3) 事業実施状況 展覧会及び各種関連事業については、事業計画書に沿って実施されている。令和2年度は、4回の展覧会事業を開催した。 4回の展覧会は、収蔵品の揃物を中心に企画し、開催時期やターゲットに合わせた展覧会の企画や、テーマに合わせた特別パネルを作成することでより深く展示内容を理解できるよう展示の仕方を工夫するなど、質の高い事業の展開ができています。また、展示解説には英語表記をし、外国人の入館者への対応も十分に行えている。	

展示会の内容と入場者数は以下のとおり。

ア これも五十三次～広重が描いた三つの東海道～（入場者数3,439人、目標13,711人）

イ 二大街道～東海道と中山道～（入場者数2,602人、目標3,969人）

ウ うきよえ探検隊！

～浮世絵に描かれた〇〇を探せ～（入場者数2,501人、目標4,994人）

エ 江戸のデザイン帖

～雛形本と浮世絵に見る意匠の美～（入場者数2,065人、目標4,973人）

また、小学生団体向けに学芸員による展示作品解説、浮世絵刷り版画体験等をプログラムとしている教育普及事業「スクールプログラム」や、「出張講座」を実施し、浮世絵や版画の魅力の普及活動にも努めている。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け学校行事が中止されていること等から、各プログラムの規模については縮小を余儀なくされている状況である。

スクールプログラム：1校 43人（令和元年度 12校 652人）

出張講座：2件 164人（令和元年度 6件 311人）

（一般向けは除く）

その他、他の博物館との連携企画や講演会を開催するなど、他団体との連携で新しい取り組みを実施し、集客や普及活動に努力がうかがえる。また、昨年度発足した地域の施設・団体が協力して由比の地域活性化に取り組む「ゆいまるプロジェクト」に参加し、桜エビの不漁や新型コロナウイルス等の外的要因の問題に対して地域の一施設として課題に向けて取り組む姿勢もうかがえる。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

利用者からの意見・要望に対しては、概ね適切に対応し、即時の対応が困難である要望に対しても前向きに対応・検討するなど、良好な対応がなされているといえる。

具体的な意見・要望と対応状況は、下記のとおりである。

(1) 意見：入館者連絡先記入用紙への記入が負担。

対応：当初は1人につき1枚の記入を求めていたが、入館者の負担軽減のため同居家族に関しては1枚の用紙に同伴者名をまとめて記入できるよう変更。

(2) 意見：順路が分かりにくい。

対応：エントランスホールの企画展看板の見取り図に順路番号を表示し対応して

いるほか、特にわかりにくい小展示室については専用の案内板を設置。

(3) 意見：作品の展示時期がわかりにくい。

対応：ポスター、チラシを作成する際に作品の展示時期をわかりやすく表記するよう対応。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

展覧会ごと、施設入館者に対して、館内に設置した投書形式の利用者満足度調査を行った結果、展覧会の内容及びその他常設展について、「とてもよかった」、「よかった」と回答した割合が83.7%と満足度目標80%を上回っている。今後、展覧会内容の更なる充実等による満足度の維持・向上に期待したい。

企画展満足度：87.2%

常設展：80.2%

(2) 市民アンケート

当課所管4施設（静岡市三保真崎グラウンドゴルフ場、静岡市由比本陣施設、静岡市東海道広重美術館、静岡市清水港船宿記念館）で実施しているアンケート調査によると、施設の認知度は44.8%と昨年度を若干下回った。（令和元年度は、認知度45.4%）。指定管理者には、引き続き認知度向上及び集客への取り組みについて期待したい。

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務の収支状況については、概ね予算のとおりにより執行されており良好である。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
年年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

施設の運営管理全般に関しては、事業計画に従い善良な注意義務をもって実施された。市との連絡調整も滞りなく行われている。

展覧会及び関連事業については、民間事業者とのコラボレーションや地域イベントとの連携協力など工夫を凝らした企画をしており、新しい切り口で幅広い層への浮世絵文化の魅力の発信に努めている。

教育普及事業では、「スクールプログラム」や「出張講座」を利用者の希望に合わせ講座内容を変化させるなど、より一層の利用者の満足度向上に努めるとともに、静岡市内だけでなく富士市、富士宮市といった市外の小中学校にも広報活動を行い、子どもたちに浮世絵文化の魅力に触れる機会を積極的に提供する取り組みは評価できる。

入館者数は、前年度から減少しているが、サクラエビの不漁により由比全体の入込みが減少していることで減少傾向が顕著に表れている。ゆいまるプロジェクトへの参加など地域課題に対して地元と連携して取り組んでいる様子がうかがえるため令和3年度については、これらの改善を期待する。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による入場者数の減少も顕著であるが、社会情勢に応じて安心して来館してもらえるよう対策を実施するなどの取り組みにより入場者数の維持改善に期待したい。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。